

# 「国語の授業を楽しく」

令和6年度  
No.4号  
8月30日

公開授業に向けての指導案検討会お疲れさまでした。お忙しい中、これまで学年で授業を練り上げていただいていたありがとうございました。今回、他学年の先生との交流からの気づきもあったことと思います。単元構成や授業展開、評価の方法など、今後も取り組んでいきましょう。

## ○研修まとめ

### ・評価について

国語においては多くの場合、**言語活動の成果物によって判断**していく。

【思・判・表】においては指導事項に記載されている内容とのつながりを特に意識すること。指導事項には、2項目の記載がされていることが多く、それが達成されているかで判断していく。2項目が達成されていると「B」、**2項目のうち1項目でも達成されていなければ「C」となり、「C」の児童がどのように「B」になるかの支援を行っていくことが重要。**さらに、「単元で学習したことが活かされているか」で評価をしていく。そのため、単元での学習は、言語活動につながるものでなければならない。

【主体的に学習に取り組む態度】においては、「**何を見るのか**」「**どこで見られるのか**」「**見られるような単元となっているのか**」の視点をもって評価を行っていくこと。自己調整しながら粘り強く取り組む姿が現れ、見取ることができる場面の構築が必要。

しかしながら、**成果物の完成度により、思・判・表の指導事項の達成＝主体的に取り組む態度ではないことに注意する。**指導事項が達成できていなくても粘り強く取り組んだ児童もいることだろうし、逆の児童もいることだろう。そのため一人ひとりの児童の様子を見取っていけるようにしていく。日々の授業の中で、40人近い児童を見取することは困難であるため、特に「C」の児童に着目し、その児童への支援の手立てを考えていくことを主眼に置いていく。

「A」に関してははっきりした基準が難しい面がある。学習集団の背景、児童個々の背景により変わっていくものである。そのため、各学年で事前にすり合わせ、基準をもっておく必要がある。

### ・授業づくりについて 「子どもを主語に考える」

単元・授業においての子どもたちの姿を想像し、**子どもたちに「なっほしい姿、持っほしい考え」を指導者が明確にして、授業づくりを進めていく。**そこから、そのために必要な学習活動は何か、

どんな手立てを用いればよいかを逆向きに考えていくことができる。

言語活動においては相手意識や目的意識をはっきりとさせることで、「だれに何のために書くのか」を子どもたちが意識できるようになってくる。

## ○各学年の取組み

1年「じどう車くらべ」	本時	学習課題づくり
2年「紙コップ花火の作り方」	本時	学習課題づくり
3年「すがたをかえる大豆」	本時	自分と筆者とのズレを掴む
4年「未来につなぐ工芸品」	本時	CMに○段落は必要かの検討
5年「固有種が教えてくれること」	本時	学習課題づくり
6年『『鳥獣戯画』を読む』	本時	学習課題づくり
支援「合同中縄跳びの頑張りをつたえよう」	本時	どんなこと伝えたらよいかの検討

11月に向けてさらに、教材研究を進めていくことと思います。2学期の研究授業、1年生と2年生もあります。そこでの気づきをもって今回から変更、進化、深化しても大丈夫です。正木先生も来られるので、お話を伺うことも可能です。

また、今年度の研究テーマである「**子どもたちからの問いづくり**」を物語文でも行うことで、子どもたちの経験値も高まり、これからつながっていきます。子どもたちが楽しく学習に取り組み、力を伸ばしていけるように、頑張っていきましょう。

☆「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校国語)と検索すれば資料を読むことができます。またもう少し評価について知りたいという先生は永井に声をかけてもらえると、ミニ研修を行うことも可能です(最近研修に行くと評価ことばかりです)。